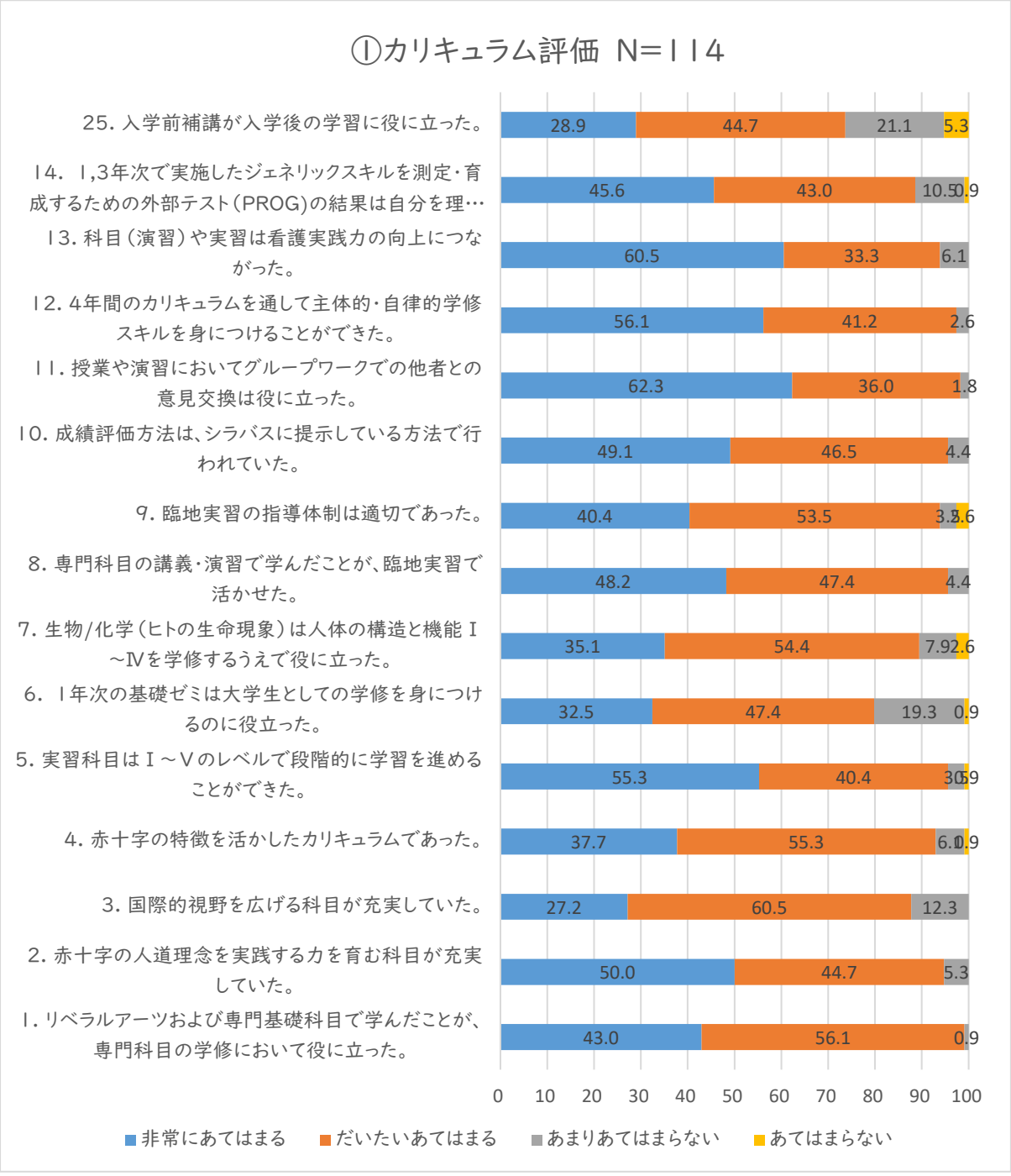
2024 年度 卒業時アンケート結果

対象　　21 期生　115 名（令和 6 年度卒業予定者）
調査期間　2025 年 1 月 30 日（木）～2025 年 2 月 28 日（金）
方法　　Forms によるアンケート調査
回収率　　99.1%（回答者数 114 名）

1．カリキュラム評価について



【自由記述の抜粋】

・入学前補講は、大学での学習スタイルに慣れるための良い機会であった。仲間づくりの機会にもなった。
・リベラルアーツおよび専門基礎科目で学んだことを応用して専門科目に取り組めた。
・リベラルアーツ及び専門基礎科目を通して、看護を取り巻く社会についての視点を学んだり、意見を論理的に述べる方法などを学習したことで、専門科目を学ぶ際も、自身の考察を文章にすることができ、理解を深めることにつながったと考える。
・赤十字の大学だからこそ、赤十字に特化した授業や研修が多数組み込まれており、充実していた。赤十字の精神は、赤十字関係の医療施設に務める務めないに関係なく、看護師として働いていく上で非常に大切で大事にしていきたい精神であるため、大学で培ってきたものは今後の看護師人生において大いに役立てることができると思う。
・国際看護コースが設立されていることやイングリッシュカフェなどがあることでより国際的な視点を身に付けることができた。
・履修科目にある災害看護や、国際言語の講義はもちろん、授業外でも外部の講師や、JICA などの研修生を招き、外国人と交流する機会がたくさんあることは、他文化の習慣や知性を理解する上でとてもためになる機会がたくさんあった。
・各レベルに応じて目標が設定されており、実習の開始から終了まで都度確認しながら臨むことができた。
・基礎をしっかりと学ぶ環境があり、学年が上がるごとに自分自身で考え、自分のスキルを磨いていくことができるカリキュラムであった。
・基礎ゼミはコロナ禍だったこともあり対面が少なく、あまり覚えていないことが多い。
・細胞レベルでの学習をはじめとすることは、これから人体と構造を理解する上でも関連することがたくさんあるため、役に立つことが多くあった。
・専門科目の演習は実習でとても役に立った。
・病棟にきて質問や相談を親身になってきいてもらったり、さまざまな助言をもらえたりした。しかし指導教員で差があると感じる部分もあった。
・実習では、学生の疑問や悩みを明らかにできるように助言をいただくことができ、充実した実習を行うことができた。
・グループワークで他者からの意見をもらうことで全然思い浮かばかった患者の一面やケアの重要性について気づくことができた。
・4 年間の学修を通して少なからず自身の成長を感じことができたと思う。
・演習はもちろん、実習で特に学内で学んだことをアウトプットする機会になり実践力は向上したと思う。
・1 年生のときの PROG テストはあまり気にしていなかったけど、3 年生の時の結果は就職活動際に自分の得意･不得意なことなど、自分のことを考える時に客観的に見る参考になった。
・特に実習の前後で自分のスキルが大きく変動していたのが印象的でした。自分では気づくことがなかった考えの変化を把握することができた。

（まとめ）

15 項目中 11 項目が「非常にあてはまる」と「だいたいあてはまる」の割合が昨年度より高くなっていた。特に、「1．リベラルアーツおよび専門基礎科目で学んだことが、専門科目の学修において役に立った。」99.1%,「11．授業や演習においてグループワークでの他者との意見交換は役に立った」98.2%,「12．４年間のカリキュラムを通して主体的・自律的学修スキルを身につけることができた」97.4%,「 5．実習科目はⅠ～Ⅴのレベルで段階的に学習を進めることができた。」95.6%,「8．専門科目の講義・演習で学んだことが、臨地実習で活かせた。」95.6%,「10．成績評価方法はシラバスに提示している方法で行われていた」95.6%と評価が高かった。理由として、リベラルアーツおよび専門基礎科目で学んだことを応用して専門科目に取り組めたことや、実習のレベルを５段階に分けて行うことで達成するべき目標が明確で確実に実践能力を身に付けられていると感じたこと、人と話し合うことで自分になかった視点に気づく機会が多かったとの意見があった。

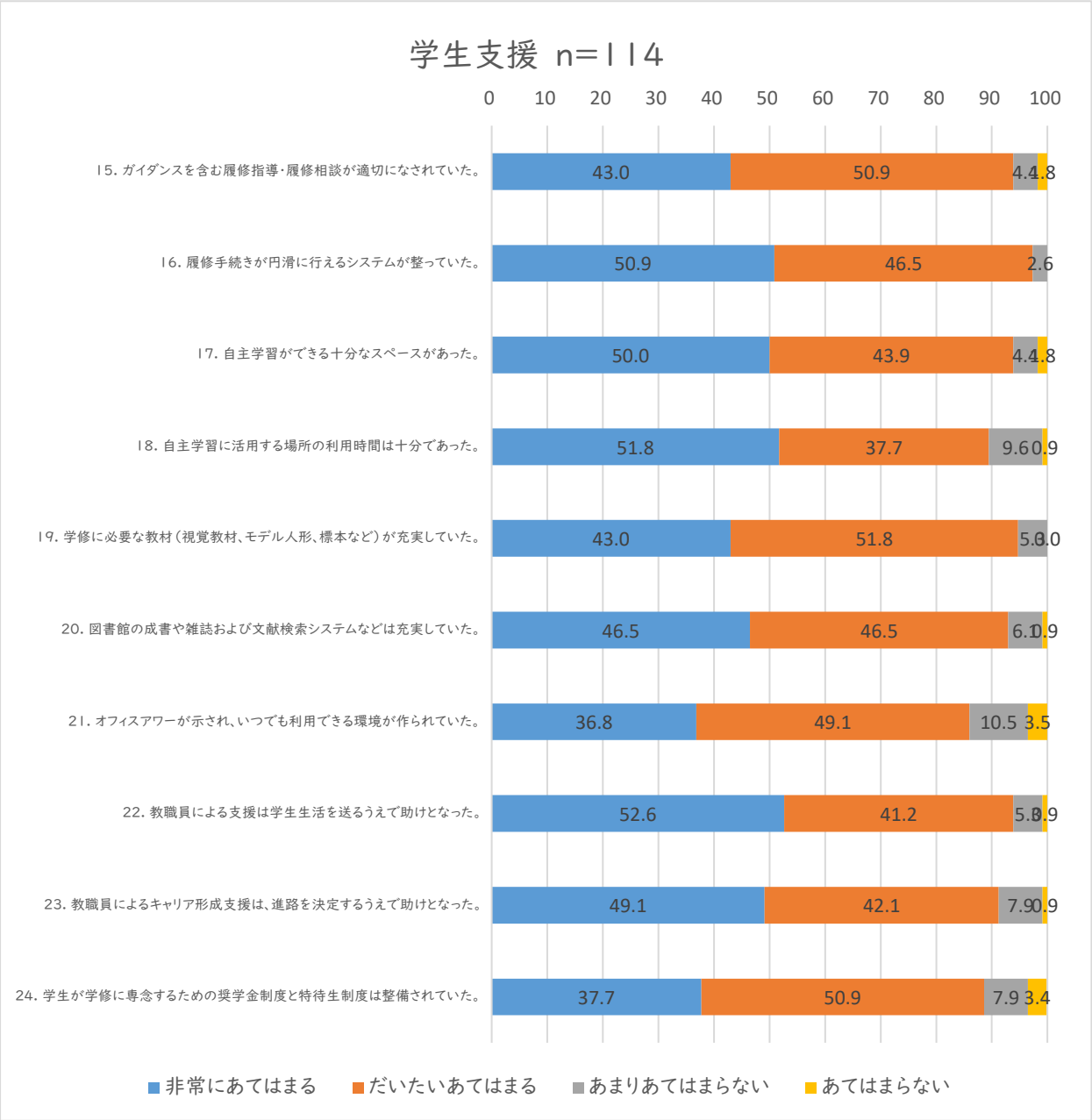
評価が低い項目においても、昨年度と比較すると評価が高くなっていた。具体的には、「25．入学前補講が入学後の学習に役に立った。」が 73.7%（昨年度 53.8%)、「6．１年次の基礎ゼミは大学生としての学修を身につけるのに役立った。」は 79.8%（昨年度 75.3%）であった。

２．学生支援について

【自由記述の抜粋】

・どの科目においてもガイダンスの内容が充実しており臨む心構えや習得しなければならない技術や考えを理解した上で科目にのぞむことが出来、非常に効率の良い学びを主体的に得ることが出来たと考える。
・ほとんどの科目が必修で、選択科目も自分の進みたいコースによって必要なものは分かりやすく提示してあり履修登録や履修状況は分かりやすかった。
・AA や教務課の教員への相談がしやすく、親身に相談に乗っていただいた。
・履修登録へのアクセスが容易でインターネットを通して可能だった。
・履修手続きは、オンラインで簡単に行えるシステムが整っていたため、時間や場所に縛られることなく、スムーズに手続きができた。
・去年か一昨年頃に履修登録が簡単になって、日にちごと、週ごとの時間割が見れるようになったのでとても良かった。
・図書館やラーニングコモンズなど集中できる環境が整えられていた。
・国試前の演習室の開放はとても役に立った。
・十分な学習利用時間が確保されており非常に満足している。
・図書館は遅くまで空いており十分な時間を確保することができた。
・外部の市営図書館などは大体 18 時 19 時で閉館することがほとんどなので、勉強場所の確保のためにも、個人的には 22 時頃まで利用したいと思っていた。他大学は 21、22 時頃まで開館しているのが羨ましかった。
・実際に学生同士でやる方がやりやすいものとモデル人形を使ってシュミレーションしながらやる方が分かりやすいもので、分けて実践することが出来た。

・教材やｅナーストレーナーなどで学習することが出来た。
・主に演習科目で使うことも多いモデル等が充実しており、より実践に近い演習を行うことができていた。
・ガイダンス時にオフィスアワーについて説明され、環境は整っていたと思うが、実際に利用したことはない。また、先生によってはいつでも研究室に訪ねてきて良いと仰ってくださる方もおり、どちらかと言うとその先生方を訪ねる方が多かった。
・AA の先生がいることによって、特に学習方法や就職試験などに役立ちました。
・AA でなくても頻繁に声をかけてくれて助けを求めやすい環境であった。
・キャリアについての講義もあり、進路を決めるのに役立った。
・志望する病院に悩んでいたときや、履歴書の作成、面接練習において何度も親身に相談に乗ってくれた。



10 項目中６項目が「非常にあてはまる」と「だいたいあてはまる」の割合が昨年度より高くなっていた。特に、「16. 履修手続きが円滑に行えるシステムが整っていた。」97.4%、「19. 学修に必要な教材（視覚教材、モデル人形、標本など）が充実していた。」94.7 は評価が高かった。理由として、履修手続きはオンラインで簡単に行えるシステムが整っていたため、時間や場所に縛られることなく、スムーズに手続きができたとの意見があった。また、文章だけでは理解できないことであっても、視覚教材や模擬患者(人形)などが利用できることでより正確な知識の理解へと繋げることが出来たとの記述があった。

評価が低い項目は「24. 学生が学修に専念するための奨学金制度と特待生制度は整備されていた」であったが、昨年度と比較すると評価が高くなっていた。理由としては利用していないためわからないとの回答が多くあったが、学生支援機構だけでなく赤十字ならではの病院の奨学金など充実していたとの記述があった。また、成績優秀者に特待生を設けるべきとの意見も複数挙げられた。

３．評価

カリキュラム及び学生生活の支援体制に関して、概ね学生からの評価は高かった。

前年度の評価と比較して全体的に評価が高く、リベラルアーツおよび専門基礎科目で学んだことを応用して専門科目に取り組めたことや専門科目の学修が実習につながっていると示唆された。課題としては、実習において指導教員に差があることが挙げられたため、指導教員間での情報共有や指導方法の統一に向けた対応が必要である。

AA を中心とした教職員による支援、国試対策、キャリア支援、奨学金制度などの学生支援の取り組みについては、次年度も同様に継続していくこととする。

2024 年度教務委員会　卒業生アンケート及び就職先アンケート

担当　西村、千原